

第 50 号

発行所

茨城県筑西市下山590

茨城県立下館第一高等学校

紫西同窓会

TEL (0296) 24-6344(代)

FAX (0296) 25-4673

印刷所 戸頃印刷所

紫西会報

令和を迎えて

紫西同窓会長 林 廣明
(第四十一回卒)

「令和」の新時代を迎え、全国民が慶び、日本中が祝福の熱気で沸き返りました。私も、「昭和」、「平成」、そして「令和」の三時代を生きてきたことに感慨深いものがあります。

そして、本年、七月二十四日から東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。東京での五輪開催は、一九六四年（昭和三十九年）以来二回目となり、前回から五十六

年目の開催となります。前回の東京オリンピック開催は私が下館一高三年に在学中のことでしたが、下館一高で東京オリンピックの入場券の抽選があり、私が体操競技の入場券を当てたことが、今では懐かしい思い出となっております。

さて、私達の母校下館一高におおきな変革の時が訪れます。

それは、令和二年四月から、

下館一高に中高一貫教育制度が導入されるのです。

従来の中学校、高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が六年間の一貫した教育課程や学習環境を選択できるようになるのです。

この制度は、生徒、保護者及び学校も、期待と不安とが交錯しているのではないかと思っております。

また、下館一高は令和五年（二〇三三年）に創立百周年を迎えることになり、同窓会として母校と協力しながら、記念事業への準備に取り組んでいるところです。

ところが、母校のある筑西市には、同窓会の支部がありません。百周年を契機として筑西支部を設立し、母校や同窓会との絆を深めるとともに、母校を支援していきたいとの声があり、令和元年十一月十六日に、同窓会館において、筑西支部設立の準備会が開催され、現在、手続きが進められております。この状況のもと、同窓会の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

さて、私事ですが、ある同

級生との出会いについてお話したいと思います。

昨年、私が駅前通りを歩いていますと、突然「やあ、林君と呼ぶ声に、私が振り返ると、そこに年配した男性が立ち止まっています。私に親しげに話しかけるのですが、私は、その人をなかなか思い出せませんでした。しかし、話の途中で、その人が同級生であることに気が付き、余りにも老けた容姿に私は驚いてしまいました。一流企業を定年退職し、再就職することなく、新聞、読書、テレビ及び散歩を日課とし、悠々自適の生活を送っているとのことでした。

私は、今年七十四歳となりますが、年金だけではとても生活することが出来ず、妻からは、八十歳までは働いて下さい、と念を押されておりますので、お客から頼まれれば土曜、日曜でも出勤し、仕事をしております。

身近な同級生に、魚屋のM君、理容師のS君、染物屋のO君、退職後、清掃会社に再就職したU君、そして八百屋のB君等がありますが、やはり、年金を当にできず、現



役で元気に働いており、老け込む様子は全くありません。高額な年金収入で実社会から離れた生活を送る同級生、一方では、その日の売り上げに一喜一憂しながら、お客に何度も頭を下げて商売に励む同級生、どのような生き方が幸せなのかは、判らないものです。

大きな変化を

前にして

学校長 川松 秀夫



紫西同窓会の皆様には、益々ご健勝にて、各界において多彩な活躍をなされていきますこと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、物心両面にわたるご支援ご協力を賜りまして、心より感謝を申し上げます。

私事ですが、「伝統ある下館第一高等学校に赴任して二年が経とうとしており、私の三十七年間の教師生活も残りわずかとなりました。しみじみと「歳月人待たず」を実感しております。

さて、今年度を振り返ってみますと、皇位継承に伴う令和への元号変更、複数の台風直撃による甚大な被害、消費税率の引き上げ、ラクビーワ

ールドカップでの熱狂など、国内では大きな出来事がいくつもありました。

本校においても、来年度からの大きな改編に備えて慌ただしい激動の年となりました。四月には附属中学生クラスが入学し、併設型の中等一貫学校へと本校は生まれ変わります。一年間という短い期間の中で、その準備に向けて全職員で努力してきました。この改編は、昭和四十九年に商業科が廃止され本校が普通科単独校になって以来の大きな出来事です。

中高一貫学校設置は、「県立高校改革プラン」施策の一つであり、国際交流やICT教育などに重点を置いた特色ある教育を行うというものです。この改革の背景には、グローバル化やAI・ロボットなどが急速な進展を遂げ、社会の在り方そのものが今だからつけない速度で変化しているという現状があります。このような予測しえない未来社会でリーダーとして活躍するためには、単なる知識や技術の習得だけでなく、豊かな人間性を育むことや論理的思考力を生かした創造性などが今ま

でより必要とされます。また、ITリテラシーの習得や異文化を理解し外国の方々とも協働できるような高いコミュニケーション力も求められることでしょう。中高一貫学校では、高校受験がないゆとりある教育を通して、これらの力をじっくり育むことを目的としています。

一方、本校では、以前から自主自立の精神を育み、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成しようとする教育活動を実践してきました。主体的・対話的な授業や国際交流を重視し、未来を見据えた教育です。この本校教育の方向性は、中高一貫学校と軸を同じにするものです。

教育の現場でも「不易流行」の考え方は大切です。実際、教育には学力向上や他人を思いやる心の育成など、どんなに社会が変化しても時代を超えて変わらない価値があり、目の前の事象に踊らされることなく、これらの不易を守っていくことは大切なことです。しかし、一方では社会の変化に対応するため必要な流行を取り入れることも肝心です。社会が大きく変化している現

状では、必要な流行を取り入れていかなければ、生徒達は時代に取り残されるかもしれません。また、時々の流行が年月を経ると不易になっていくこともあるのではないのでしょうか。つまり、時代の変化を見通し、教育における「不易」と「流行」を十分に見極めつつ、教育実践を進めていく必要があると考えます。

何はともあれ、私たち教職員は教育活動の第一の目的は生徒の成長にあることを肝に銘じながら、四月からも充実した教育実践を行います。それらは、生徒達にとって将来幸福な人生を送るための糧となることを信じております。

最後になりましたが、本校は四年後に創立百年という大きな節目を迎えます。現在、林会長を中心とした創立百周年事業準備委員会が設けられ、式典に向けての協議や記念誌発行に向けての資料収集などが進められています。また、支部会活動充実のために、新たに筑西支部を設立するため準備も着々と進行しております。今後とも紫西同窓会の皆様には、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新任の先生よりメッセージ

下館一高に赴任して

教頭 山田 伸一



下館一高に赴任して二年近くが過ぎようとしています。赴任が決まった当初は、片道一時間の通勤に不安を覚えていましたが、いつしかそれにも慣れ、四季折々の風景を楽しめるほどになりました。自宅のあるつくば市の南東部から筑波山をかすめて筑西市まで通っていると、同じ茨城県でもその風土がだいぶ異なることが分かります。風土は文化やものの考え方に影響を与えます。『所変われば・・・』とよく言われますが、インターネットがこれだけ普及した現代でも、良い意味で皆が同じようにならないのは、こうした風土の違いが影響しているせいかもしれません。

さて、下館一高に赴任して数ヶ月を過ごして感じていることは、一高の生徒たちは、これも良い意味で純朴だということです。ここ筑西を含めた県西地区の風土が培ったものでしょうか。純朴さは信じる心を育てます。人を信じることで、自分を信じることで・・・信じる心は人間の成長に大きな影響をもたらします。そんな純朴な生徒たちを保護者や教職員が一所懸命育てようとしている、これが私の受けた下館一高の印象です。私自身も一高から力をもらいながら、一高のために何ができるかを考え、日々を過ごしています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



下館一高に赴任して

下館一高附属中学校
教頭 木村 厚夫
(第五十九回卒)



下館一高に赴任して間もなく一年です。下館一高は私の母校で、現在の校舎は私が在学中に完成したものです。勤務が始まり、校舎に足を踏み入れると高校生だった当時のことが懐かしく思い出されました。

私には、これまでの教員生活の中で母校勤務の経験はありません。下館一高は、私にとって初めての母校勤務です。私は本来、小学校や中学校の教員です。下館一高に勤務することは想定にありませんでした。下館一高に中学校ができることになったため、思いもかけずに母校勤務が実現したのです。

紫西会報

多くの人が人生は計画的に、と思っているのではないのでしょうか。しかし、想定し

たとりにいかないのも人生です。これから生きる子供たちには、未知の状況にもたくましく向き合う粘り強さが必要だと感じています。

下館一高に赴任して

榎野 繁樹
(第五十六回卒)



並木中等教育学校から来ました。下館一高は、自分の母校です。旧校舎の壁を登って、担任の先生に褒め怒られたのが、今となっては良い思い出です(良い子はまねしてはいけません)。あの頃は、自分の中に何かを未来の可能性として信じていました。漠然とですが、真面目に勉強していれば、優しいお嫁さんが居る未来が普通に手に入る、と思っていました。

入学と同時に、弓道部に入って、一年間楽しい部活動を体験しました。しかし、親から成績不振を盾に退部を迫られ、根性の無い私は、先輩に

説得されながらも、結局部活を辞めました。あの時は、人前で涙を流して泣きました。その後は、どうにも勉強する意義を感じられず、さらに成績が下がりました。クラスでは、好きな女子が、別な男子と四六時中仲良くしています。

私は、非常にネガティブになりました。やがて、高3の夏になって、せめて大学に受かってから人生を見直そうと思ひ、戦略を練って本気で勉強しました。

その結果、自衛隊航空学生(給料あり)、海上保安大学校(給料あり)、筑波大学(授業料払う)に合格しました。こつそりと海上保安大学校への入学手続きを進めていましたが、親にばれてしまい、入学辞退の電報を出されてしまいました。その後、筑波大学に通い、教員免許を取って理科の教師になりました。結婚して、子供もいますが、現在は年配たい母親と二人で暮らしています。母が目に見えて老いていく様は、将来の自分を見ていくようで、少し切ないです。

下館一高に赴任して

須藤 弘子



今年度の人事異動で下館二高より赴任いたしました。早いものでまもなく一年が過ぎようとしています。この一年間皆さんと関わりをもち感じるのは、実に素直で純真な生徒達ということでした。その素直さを武器に、生きていく中で恵みの一つである教育を受け、この伝統ある下館一高で学び、学問する楽しさを知る準備をして下さい。

時には思惑通りにならないこともあるでしょう。そんな時は考え込まずに、行動を起こし、チャレンジ精神をもち前に進むのです。人はみな、今与えられている状況と与えられた時間を充実したものにしていくのです。人生は一回しかありません。皆さんにとって大切なのは今日からの時間の使い方です。

高校時代に主力で向き合うことから逃げないで下さい。いい加減ではなく、どんなことでも夢中になることです。夢中になれることの強さ。入り口がシンプルで素直直なら、熱意も生まれやすいと思うのです。

全力のその先には、自分でも想像もしない素敵な世界が広がっているはずです。共に学び成長していきましょう。

下館一高に赴任して

増田 誠也



宗教人類学者である中沢新一さんに、『アースダイバー』というシリーズの著作があります。恐らくはこの一連の本に影響を受けたであろうと思われるNHKの番組が『プラタモリ』です。私は特に地質学的な知識や興味があるわけではないのですが、この番組の適度に脱力感のあるスノッブな雰囲気親しみを感ずいています。あわせてところどころ

の風土への仄かな旅愁のようなものを感じさせてくれることも魅力です。

下館はただ通り過ぎるだけの街でしたが、下館一高に赴任したことを機に幾度か街中を歩いてみました。交通の要衝であり、それ故、品格漂う老舗と路地沿いの小商いの店が混在する商都であり、古社を擁する歴史の街であり、更には、洒落な美術館に象徴される文化都市でもあると感じました。それぞれが岸辺のアルバムの一枚のようだと思ひます。この趣ある街を背景に連綿と青春群像劇が演じられ、これからも繰り広げられていくでしょう。その片隅でも登場できれば幸いです。

下館一高に赴任して

星野 正樹
(第六十七回卒)



教員になってから、「いつかは母校で」と思っていました。その願いが叶いに叶いま

した。不思議な縁で、かつて自分が所属していた二年七組の副担任も仰せつかりました。毎日のように顧問に来ていた職員室は当時の面影が残っていて、とても懐かしい気持ちになりました。

下館一高に赴任して

河野 善美
(第七十四回卒)



下館一高は、昔から「自由な校風」が特徴的でした。在学時、先生方は、生徒の自主性を尊重してくれ、その雰囲気は今も変わらず、先生方も生徒達も学校生活をのびやかに謳歌しているように感じます。

生徒達は、明るく、前向きで、あいさつもしっかりできます。授業も一生懸命に真面目に参加してくれます。私は、英語の教員ですが、生徒とベアワークをするときには、私自身、英語の一学習者となつて、生徒と一緒に英語を使うことを思い切り楽しんでいきます。

どんなに幸せで楽しい時間でも、必ず限りががあります。そのことを肝に銘じ、母校で勤務する機会が与えられたことに心から感謝し、毎日を精一杯過ごしていこうと思います。最後まで読んでいただきましてありがとうございます。

れからもうそろそろしくお願ひいたします。

この四月より母校である下館一高に赴任しました。多少古びた感はありませんが、当時と同じ校舎で、同じ制服を着た生徒たちを前にすると、ここで過ごした高校生時代が昨日のことのように思い出されます。

私が高校生の頃、下館一高には校則がないと言われていました。服装を注意されたことはありませんし、提出課題はあってもあまり出さなかった気がします。悪く言えば「ほったらかし」ですが、高校生という多感な時期に、生活と学習の両面で自主性を尊重してもらったお陰で、今の私があるのではないかと思っています。

今では時代が変わり、ある程度の校則や提出課題はありますが、それでも自主性の精神は引き継がれているように感じます。七曜祭やクラスマッチなどの学校行事、部活動、進路選択に関わる様々な行事、課外授業等、自主的に参加し自分を高めていける環境が、下館一高にはあります。ぜひ積極的に活用して下さい。私も、後輩である生徒たちと共に成長できるよう、努力していきたくと思います。

下館一高に赴任して

竹内 綾華



下館一高に赴任して九ヶ月が経とうとしていますが、毎日が新しい発見でいっぱいです。自分の世界が広がっていることが楽しくて仕方がありません。そして、生徒のみなさんが一生懸命に考え、学ぼうとする姿を毎日見ることができるのが嬉しいですね。みなさんのそんな姿が刺激となつて、私も学ぶことができています。今後ともよろしくお願ひします。

下館の町に初めてやってきたとき、屋根の上に高く伸びるアンテナに目を引かれました。私にとってはとても新鮮な景色で、雪の降らない地域にきたことを実感しました。そして校舎をつなぐ渡り廊下。本校に赴任して最初に驚いたことです。雪国・新潟で育った私にとって、外にある渡り廊下といえは学園ドラマ

でしか見たことがないものでした。

下館一高に赴任して

薄羽 明梨



「私がおくれるメッセージ」とは何かと考えたとき、社会人「二年目」として何を学んだかということである。何においても「二年目」は期待と同じくらい、不安や「成長していかなければならない」というプレッシャーを感じるのではないだろうか。実際、私

自身もそうであった。自分が持っている力を最大限に出し切らなければ気が済まなかった。結果、体調を崩した。一層、人に迷惑をかけることになり、本末転倒だ。そのようなどき、何で読んだかは定かではないが、「自分の限界を超えて頑張るよりも、頑張っても平気なメンタルや体調を整えることが重要」という言葉を見たとき、まさに目から鱗であった。長い目で見て、多少無理をしても平気な体力を付けていくことが、今の自分(二年目)には必要なのかもしれない。そう考えると、当初は日々消化していくことに必死であったが、多少気持ちにゆとりができたように思う。社会人一年目、頑張るすぎないことの重要性を学んだ。

「人のせいにしない人生を」

柳橋 晃代



この度で縁がありまして、下館第一高等学校に勤務する

ことになりました。しかし「一年」という契約ですので3月にはお別れになります。お別れにあたり、生徒の皆さんに残していきたいお話をここに書きます。お子様に一読させていただけると幸いです。

私は、「人生は選択の連続」だと思っています。朝起きて何を食べるかということから始まり、何時に寝るのかまで、日々選択の連続です。これからは、進学・就職・結婚と自分自身で決めなければならぬことは次第に重要になってきます。その時に大切なことは、「自分のことは自分で決める」ということです。周囲の方々のアドバイスは聞きましよう。しかし、最後に決断を下すのは「あなた」です。その代り、人のせいにはできません。全て自己責任です。それが大人になるということです。失敗しても良いと思います。人生に無駄はないからです。

「人のせいにしない人生」を謳歌してください。



進路指導の現状

進路指導部長 日向 久

【平成三十一年度入試概況
(平成三十一年三月卒業生)】

三十一年度の大学志願者数は前年並みの68万人程度でした。18歳人口は前年から約1万8千人減少しましたが、現役志願率は上昇を続けており、現役大学志願者数は前年並みであったと予想されます。また、前年の私立大入試が厳しかった影響から、既卒大学志願者数は増加しました。

リスニング・「国語」の平均点アップが、多くの理系生が選択する「化学」「物理」「地理B」の平均点ダウンを補ったと考えられます。

国公立大では、近年顕著だった学部・学科の新設・再編の動きが落ち着いていたものの、理工系の学部を中心とする学科再編の動きは活発でした。多面的評価導入の動きは拡がりを見せており、一般入試の募集定員を推薦・AO入試へシフトさせる大学が目立ちました。一方、公立大では近年、中期日程を設ける大学が増え、本年度は20大学28学部が実施しました。中期日程の志願者数は前年度を大きく上回り、過去十年で最多となりました。受験生は選択肢の1つとして、中期日程を考える必要があります。

私立大では、都市部の大規模大を中心に、国の定員超過抑制強化策の影響によって、合格者を減らして入学者を抑えようという動きが続きました。その影響で、受験生の全志向が更に強まり、1人あたりの受験校が増えた結果、志願者数は前年比106%となり、三十一年度も厳しい入試となりました。また、前年より合格者数を減らして、補欠合格者からの入学許可や追加合格で入学者数を調整するということも起きました。三月下旬になっても追加合格が出るという現象が続いたのです。その一方で、前年度までに定員超過の適正化を済ませた難関大学では、合格者数を減らす動きは見られず、志願者数も回復しないため、結果的にやや易化した大学もありました(早慶上理・GMARCH)。

難関大学だからといって最初から敬遠するのではなく、挑戦する気持ちを持ち続けることが大切です。

【本校生(平成三十一年三月卒業生)の状況】
指定校推薦では、慶應義塾大学や明治大学、中央大学など二十八名が合格しました。国公立大学については、推薦入試では山形大学、筑波大学、茨城大学、東京学芸大学など九名、一般入試では前期で六十二名、中期・独立日程で六名、後期で十八名、合計で九十五名が合格しました。また、筑波大学や東京大学(本校では十一名)にも前期試験で合格者が出ました。私立大学については、慶應大学一名、早稲田大学六名、東京理科大学四名、MARCHが十一名、日東駒専八十二名等、合計四百三十一名が合格しました。(今年度卒業生の進路状況については、三学年概況の欄を御覧ください。)

合格者の傾向としては、1年時から、高校での学習方法を見つめるために試行錯誤を繰り返して、自学自習の習慣を身につけようとしていることが上げられます。中学時代に比べて学習内容が飛躍的に増えるのですから、言われるがまま課題をやっただけでは、真の学力は身につけません。常に、自分の学習内容や学習方法を振り返りながら、「予習→授業→復習」の黄金律を習慣として確立するか否かにかかっています。また、自分の将来を真剣に考え、自ら進路(志望大学)を決めることも大切です。親や先輩、先生方にアドバイスを求めることもありますが、自分の進路は自分で決めなければなりません。その第一志望を最後まで貫き通した生徒が、合格を勝ち取っています。

進路を探る過程で、是非自らに問いかけてほしいことがあります。「なぜ勉強するのか」という問です。明快な答えは中々得られないかもしれませんが、この問から逃げないことが、目の前の一見無味乾燥な勉強を、将来へと繋げる鍵となるはずです。

【今後の展望】
2021年度入試(現高二生対象)に向けて、今年度も大きな動きがありました。そこで、(1)英語資格試験活用延期、(2)主体性評価(3)共通テストの3つの観点から今後の大学入試を占ってみたいと思います。

例年、その年の志願動向に大きな影響を及ぼすセンター試験の平均点ですが、前年に比べて上昇しました。7科目文系型(900点満点)では569点(前年比プラス7点)となりました。「英語リスニング」や「国語」で平均点が大きくアップしたことが、その要因だったと考えられます。一方、7科目理系系(900点満点)では571点(前年比プラス11点)となりました。こちらは「英語

リスニング」や「国語」の平均点アップが、多くの理系生が選択する「化学」「物理」「地理B」の平均点ダウンを補ったと考えられます。

国公立大では、近年顕著だった学部・学科の新設・再編の動きが落ち着いていたものの、理工系の学部を中心とする学科再編の動きは活発でした。多面的評価導入の動きは拡がりを見せており、一般入試の募集定員を推薦・AO入試へシフトさせる大学が目立ちました。一方、公立大では近年、中期日程を設ける大学が増え、本年度は20大学28学部が実施しました。中期日程の志願者数は前年度を大きく上回り、過去十年で最多となりました。受験生は選択肢の1つとして、中期日程を考える必要があります。

私立大では、都市部の大規模大を中心に、国の定員超過抑制強化策の影響によって、合格者を減らして入学者を抑えようという動きが続きました。その影響で、受験生の全志向が更に強まり、1人あたりの受験校が増えた結果、志願者数は前年比106%となり、三十一年度も厳しい入試となりました。また、前年より合格者数を減らして、補欠合格者からの入学許可や追加合格で入学者数を調整するということも起きました。三月下旬になっても追加合格が出るという現象が続いたのです。その一方で、前年度までに定員超過の適正化を済ませた難関大学では、合格者数を減らす動きは見られず、志願者数も回復しないため、結果的にやや易化した大学もありました(早慶上理・GMARCH)。

難関大学だからといって最初から敬遠するのではなく、挑戦する気持ちを持ち続けることが大切です。

【本校生(平成三十一年三月卒業生)の状況】
指定校推薦では、慶應義塾大学や明治大学、中央大学など二十八名が合格しました。国公立大学については、推薦入試では山形大学、筑波大学、茨城大学、東京学芸大学など九名、一般入試では前期で六十二名、中期・独立日程で六名、後期で十八名、合計で九十五名が合格しました。また、筑波大学や東京大学(本校では十一名)にも前期試験で合格者が出ました。私立大学については、慶應大学一名、早稲田大学六名、東京理科大学四名、MARCHが十一名、日東駒専八十二名等、合計四百三十一名が合格しました。(今年度卒業生の進路状況については、三学年概況の欄を御覧ください。)

【今後の展望】
2021年度入試(現高二生対象)に向けて、今年度も大きな動きがありました。そこで、(1)英語資格試験活用延期、(2)主体性評価(3)共通テストの3つの観点から今後の大学入試を占ってみたいと思います。

(1)英語資格試験活用延期
昨年、十一月一日(金)、共通ID発行申し込み初日、「大学入試英語成績提供システム」の実施が、5年後の2024年度(現中一生対象)まで延期されることが発表されました。地域格差、経済格差などの問題が、公平・公正の観点から、未だ解消されていないという指摘が相次ぐ中で、ギリギリの決断でした。その発表を受けて十一月二十九日に82の国立大が対応を公表しました。内訳を見ると、①全学部で活用(東京海洋・広島・九州工業・佐賀・鹿児島)、②一部の学部で活用(秋田・茨城・千葉・九州等11大学)、③活用中止(筑波・宇都宮・群馬・埼玉・東京等62大学)、④もともと活用しない(北海道・東北・筑波技術・京都工芸繊維)となっています。それ以外、公立大と私立大の英語資格試験活用に関しては、文科省から十二月十三日を目標に公表するように依頼がありました。各大学が公表する情報については、文科省の「大学入試英語ポータルサイト」を通じて順次公表する予定になっています。従って、2024年度までは、英語資格試験活用の有無を除けば、国公立大の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」、私立大学の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」が基本的なフォーマットになります。ただ、英語資格試験が大学入試に導入されようが

【今後の展望】
2021年度入試(現高二生対象)に向けて、今年度も大きな動きがありました。そこで、(1)英語資格試験活用延期、(2)主体性評価(3)共通テストの3つの観点から今後の大学入試を占ってみたいと思います。

(1)英語資格試験活用延期
昨年、十一月一日(金)、共通ID発行申し込み初日、「大学入試英語成績提供システム」の実施が、5年後の2024年度(現中一生対象)まで延期されることが発表されました。地域格差、経済格差などの問題が、公平・公正の観点から、未だ解消されていないという指摘が相次ぐ中で、ギリギリの決断でした。その発表を受けて十一月二十九日に82の国立大が対応を公表しました。内訳を見ると、①全学部で活用(東京海洋・広島・九州工業・佐賀・鹿児島)、②一部の学部で活用(秋田・茨城・千葉・九州等11大学)、③活用中止(筑波・宇都宮・群馬・埼玉・東京等62大学)、④もともと活用しない(北海道・東北・筑波技術・京都工芸繊維)となっています。それ以外、公立大と私立大の英語資格試験活用に関しては、文科省から十二月十三日を目標に公表するように依頼がありました。各大学が公表する情報については、文科省の「大学入試英語ポータルサイト」を通じて順次公表する予定になっています。従って、2024年度までは、英語資格試験活用の有無を除けば、国公立大の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」、私立大学の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」が基本的なフォーマットになります。ただ、英語資格試験が大学入試に導入されようが

【今後の展望】
2021年度入試(現高二生対象)に向けて、今年度も大きな動きがありました。そこで、(1)英語資格試験活用延期、(2)主体性評価(3)共通テストの3つの観点から今後の大学入試を占ってみたいと思います。

(1)英語資格試験活用延期
昨年、十一月一日(金)、共通ID発行申し込み初日、「大学入試英語成績提供システム」の実施が、5年後の2024年度(現中一生対象)まで延期されることが発表されました。地域格差、経済格差などの問題が、公平・公正の観点から、未だ解消されていないという指摘が相次ぐ中で、ギリギリの決断でした。その発表を受けて十一月二十九日に82の国立大が対応を公表しました。内訳を見ると、①全学部で活用(東京海洋・広島・九州工業・佐賀・鹿児島)、②一部の学部で活用(秋田・茨城・千葉・九州等11大学)、③活用中止(筑波・宇都宮・群馬・埼玉・東京等62大学)、④もともと活用しない(北海道・東北・筑波技術・京都工芸繊維)となっています。それ以外、公立大と私立大の英語資格試験活用に関しては、文科省から十二月十三日を目標に公表するように依頼がありました。各大学が公表する情報については、文科省の「大学入試英語ポータルサイト」を通じて順次公表する予定になっています。従って、2024年度までは、英語資格試験活用の有無を除けば、国公立大の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」、私立大学の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」が基本的なフォーマットになります。ただ、英語資格試験が大学入試に導入されようが

(1)英語資格試験活用延期
昨年、十一月一日(金)、共通ID発行申し込み初日、「大学入試英語成績提供システム」の実施が、5年後の2024年度(現中一生対象)まで延期されることが発表されました。地域格差、経済格差などの問題が、公平・公正の観点から、未だ解消されていないという指摘が相次ぐ中で、ギリギリの決断でした。その発表を受けて十一月二十九日に82の国立大が対応を公表しました。内訳を見ると、①全学部で活用(東京海洋・広島・九州工業・佐賀・鹿児島)、②一部の学部で活用(秋田・茨城・千葉・九州等11大学)、③活用中止(筑波・宇都宮・群馬・埼玉・東京等62大学)、④もともと活用しない(北海道・東北・筑波技術・京都工芸繊維)となっています。それ以外、公立大と私立大の英語資格試験活用に関しては、文科省から十二月十三日を目標に公表するように依頼がありました。各大学が公表する情報については、文科省の「大学入試英語ポータルサイト」を通じて順次公表する予定になっています。従って、2024年度までは、英語資格試験活用の有無を除けば、国公立大の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」、私立大学の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」が基本的なフォーマットになります。ただ、英語資格試験が大学入試に導入されようが

(1)英語資格試験活用延期
昨年、十一月一日(金)、共通ID発行申し込み初日、「大学入試英語成績提供システム」の実施が、5年後の2024年度(現中一生対象)まで延期されることが発表されました。地域格差、経済格差などの問題が、公平・公正の観点から、未だ解消されていないという指摘が相次ぐ中で、ギリギリの決断でした。その発表を受けて十一月二十九日に82の国立大が対応を公表しました。内訳を見ると、①全学部で活用(東京海洋・広島・九州工業・佐賀・鹿児島)、②一部の学部で活用(秋田・茨城・千葉・九州等11大学)、③活用中止(筑波・宇都宮・群馬・埼玉・東京等62大学)、④もともと活用しない(北海道・東北・筑波技術・京都工芸繊維)となっています。それ以外、公立大と私立大の英語資格試験活用に関しては、文科省から十二月十三日を目標に公表するように依頼がありました。各大学が公表する情報については、文科省の「大学入試英語ポータルサイト」を通じて順次公表する予定になっています。従って、2024年度までは、英語資格試験活用の有無を除けば、国公立大の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」、私立大学の一般選抜においては、「2技能の共通テスト十各大学の個別試験」が基本的なフォーマットになります。ただ、英語資格試験が大学入試に導入されようが

されまいが、英語4技能習得の重要性は変わらず、これまで通り、授業や普段の学習を通して意識的に身に付けていくべきものです。

(2) 主体性評価

主体性評価は、現行の調査書等を改善し、「主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価するため、一人一人が積み上げてきた大学入学前の学習や多様な活動(部活動・ボランティア活動・留学・海外経験等)取得・資格等表彰・顕彰等の記録)に関する評価を、更に充実させることを目標にしています。その記述の基になるのが、本校の現高一・高二が既に着手しているポートフォリオです。3年間の高校生活の過程を、具体的にかつ正確に記録しておくことが求められます。来年度4月からは、各学校でバラバラに記録されていたポートフォリオを「ギャリアパスポート」という形式に統一し、全学年で実施することが決まっています。実際には、大学側に提出する調査書や志望理由書等を、合否判定を左右する客観的評価(点数化)に結び

付けることに踏み込んでいる大学は少数ですが、例えば筑波大では、①一般選抜前期で新規実施される「総合選抜」において、調査書の点数化を導入したり(2450点中50点)、②前期・後期全ての一般選抜で、調査書・志望動機書・集団討論・個別面接のいずれかの評価方法を用いて、全配点中100〜400点の割合で(各学類によって配点が異なる)点数化する等の具体的な動きも出ています。

(3) 共通テスト

去る十二月十七日、入試改革の目玉であった共通テストの国語と数学の記述式問題の導入が見送られることが発表されました。民間業者による採点ミスや自己採点の難しさへの不安を払拭できないという理由からでした。ただ、マーク形式の出題形式が変わらないとしても、センター試験から共通テストへの移行に伴う変化(①難易度は、平均得点率が5割程度に設定されること ※現行のセンター試験は6割程度に設定されています、②知識を、日常生活や社会でどう活用するかという力が求められること、③英語

のリーディング、リスニングが各100点という配点になること)は維持されます。そして、個別試験も含めて、単なる知識・技能ではなく、論理的思考力、判断力、表現力(自分の考えを自分の言葉で表現する)や課題解決力を養成していくことの重要性は何ら変わりません。

以上、現在進行中の大学入試改革を受けて、本校でも4年前から「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善、電子黒板導入等による学習環境の整備、今年度から現2年生を対象とした「総合的探究の時間」の先行実施等に取り組んでいます。その過程を経て、本校は今、次の段階に進もうとしています。①ICTの整備が、形式倒れに終わらず、生徒への真の教育効果へと繋げるための更なる授業改善を進める、②課題を厳選し、与えられる勉強から、自分で考えて、自分の学習内容や学習方法を確立する、自立した学習者を育てる、という方向へ大きくシフトしようとしています。下館一高の新しい教育改革の試みが今後どう変わっていくのか、温かい目

で見守って頂きたいと思えます。

各学年の現状

一学年概況

一学年主任 海老澤淳子

入学の喜びも束の間、毎日が慌ただしく過ぎていき、気が付くともう一年が過ぎようとしています。授業は中学校よりも五分長い五十五分で学習内容も難しくなり、さらに部活動でも練習時間は長くなるため、入学当初はなかなか体がついていかず辛い思いをしていたようです。最近では、高校生としての生活にも慣れできて、それぞれの目標に向かって満足できる日々を送っていることでしょう。

さて、一年を振り返ってみると、たくさんさんのチャレンジをしました。

ブリティッシュヒルズの語学研修では、英会話に自信を持った生徒がいる一方、その必要性を強く感じ、多くの生徒がもっと語学力を高めたいと意欲が湧いてきたようです。希望者が参加する夏休みのオーストラリアの語学研

修には二十二名が参加しました。参加したほとんどの生徒が、英語でのコミュニケーション能力やリスニングの力の向上を実感したようです。そして、外国人とのコミュニケーションには、日本についての知識が豊富なほど会話が弾むことを実感し、もっと勉強を頑張ろうと思ったようです。十月の企業訪問では、毎日新聞社東京本社や講談社、日本銀行、日本テレビ等に見学に行きました。多くは都内に立地する企業で、個人で行くことが困難な会社もあり、「仕事」や「働く」といった意識や、世情情勢への興味関心が高まった生徒もいたようです。

クラス中心に参加する行事は文化祭、クラスマッチがありました。中学までと違つのは、企画や運営を生徒が中心に行うことです。最初の文化祭では、初めてのことがばかりで戸惑う様子もみられましたが、苦労して成し遂げた分の生徒がそれを実感できたようでした。日を追うごとに、団結力もその本気度も一段と

増したように思います。

二学年概況

二学年主任 薄井裕美

「やらなければならぬこととはわかっているが、なかなか思ったようにいかず、試行錯誤中。」二学年の生徒の現状をまとめると、このようなところでしょう。

八時二十五分、朝の読書水曜日と木曜日は英語と国語の速読が始まります。準備万端で真剣に取り組んでいる生徒がいる一方で、バタバタと駆け込んでくる生徒もいます。二年生は、学習内容が難しくなり、部活動では責任ある立場になるなど、やらなければならないことが増えますが、時間は有限です。だからこそ自分の時間を自分で管理することが重要なのですが、簡単ではありません。

増したように思います。

学年では、GWが例年より長くなったことを受け、臨時の学習アドバースを出し、GW明けに確認テストを行いました。六月には、大学見学会を実施し、七つのコースに分かれて、平日の大学と学生の姿を見る機会をもちました。秋には、茨城県で国体が行われ、得がたい経験をした生徒もいます。

そして、十二月、台湾への修学旅行に行ってきました。アンケートの回答を見ると、一人一人が台湾の人と文化を感じ、改めて日本について考えることができたようです。姉妹校である開南高校との交流では、異なる文化をもつ同世代の生徒とのコミュニケーションを体験し、B&Sプログラムでは、英語を使ったコミュニケーションの必要性を認識するなど、一連の活動を通して、単に楽しいだけでなく、様々なことを学び、これからの自分について考える契機となったと思っています。

三学年概況

三学年主任 四家明彦

高校最後の一年、大学受験という生徒達の人生の中でも大きな転機を控え、ひたすら準備に明け暮れた一年でした。当初「善勝」というテーマを掲げました。これは、結果だけを求めて、ただ「勝つ」のではなく、受験という試練に対して、「善処して己との戦いに勝ってほしい」との思

いからでした。最善を尽くせば、たとえ結果は勝てなくても、成長につながるものです。そこを何度も言ってきました。

下館一高は地域の伝統校として、毎年、国公立大学へ百名以上の現役合格者が出ることを誇りとしていましたが、この三年間はわずかの違いとはいえ百名を超えられずにいます。

今年こそは、百名を超えられるよう様々なサポートして参りました。夜七時までの教室開放、長期休暇中の学習合宿、夏期課外授業、八時間耐久学習会、SACクラス、各教科の追試や補習、例年以上に、本学年は数多くの学習の機会を作ってきました。

しかし、家庭学習の時間は五年前、百二十名程度が国公立大学に合格していた頃と比べると大幅に落ちています。学習指導部の調査では平均で一時間以上少なくなっているのです。

「徹夜で勉強！」のような根性論は時代遅れなのですが、気になるのは二極化傾向です。そのような機会に積極的に参加した生徒とほとんど

参加しない生徒に極端に分かれていました。学校で用意した機会を利用しなくてもしっかり学習さえしていれば問題ないのですが、参加しなかった生徒は「善勝」できていたのが気になります。二月からは自由登校となりますが、今まで通りの登校して、教室で自習することを勧めています。今までそういう機会を利用して来なかった人も是非参加していただきたいです。

いづれにしても、残りあとわずか。学校としては四月にすがすがしい気持ちで新年度を迎えられるように全力で学習をサポートしていきます。

進路状況

国公立大 (12名)

- ・筑波大学 2名
- ・群馬大学 5名
- ・茨城県立医療大学 4名
- ・長野大学 1名

私立大 (48名)

- ・慶應義塾大学 1名
- ・明治大学 1名
- ・中央大学 1名
- ・立教大学 1名
- ・法政大学 1名

専門学校 (1名)

- ・ミスパリュウティー 1名

就職 (1名)

- ・茨城県警 1名

- ・東洋大学 1名
- ・明治学院大学 3名
- ・酪農学園大学 1名
- ・明治薬科大学 1名
- ・北里大学 1名
- ・国際医療福祉大学 7名
- ・獨協医科大学 1名
- ・東京女子大学 1名
- ・亜細亜大学 1名
- ・帝京大学 2名
- ・國學院大學 1名
- ・昭和女子大学 2名
- ・自治医科大学 1名
- ・東京家政大学 4名
- ・白鴎大学 3名
- ・共立女子大学 1名
- ・常磐大学 3名
- ・尚美学園大学 1名
- ・千葉工業大学 1名
- ・大妻女子大学 1名
- ・駒沢女子大学 1名
- ・女子栄養大学 1名
- ・日本社会事業大学 1名
- ・日本女子体育大学 1名
- ・昭和音楽大学 1名
- ・広島国際大学 1名



主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度
東北	0	1	1	1	1
山形	3	2	5	3	5
福島	8	2	3	5	8
茨城	24	26	20	16	24
筑波	4	5	3	5	5
宇都宮	7	12	17	12	8
群馬	3	2	5	1	8
埼玉	15	5	6	6	5
千葉	1	2	0	1	0
東京	1	0	0	0	0
一橋	0	0	0	1	0
東京工業	0	0	0	1	0
東京学芸	2	1	0	1	2
横浜国立	0	0	1	0	1
その他	8	9	5	11	12
国立大計	76	67	66	64	79

(主な私立大学)

大学名	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度
国際医療福祉	14	15	10	7	4
獨協	8	12	15	16	10
文教	10	25	13	14	11
青山学院	0	0	0	3	1
大妻女子	1	9	7	5	22
北里	7	2	1	2	3
慶應	1	2	1	5	1
國學院	5	3	0	1	2
駒澤	8	16	8	18	8
芝浦工業	10	4	12	10	3
上智	0	0	0	0	1
専修	5	3	7	11	6
中央	3	5	5	8	21
津田塾	2	0	1	1	5
東京女子	2	5	3	0	18
東京薬科	1	0	0	0	1
東京理科	4	1	4	6	4
東洋	47	49	57	48	17
日本	22	14	30	22	27
日本女子	3	0	0	0	10
法政	5	6	13	12	2
東京都立	1	1	4	2	4
明治	3	4	2	11	4
明治学院	5	3	7	10	11
立教	3	1	5	6	1
早稲田	6	0	1	3	5
その他	270	325	377	385	383
私立大計	446	505	583	606	585

(主な公立大学)

大学名	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度
高崎経済	6	11	10	6	16
県立医療	2	1	2	3	2
首都大東京	1	0	1	1	0
横浜市立	1	0	1	1	2
その他	14	14	22	26	56
公立大計	24	26	36	37	76

進路決定先人数

年 度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就 職	未定・他	卒業者数
31	84	146	2	13	1	27	273
30	83	152	1	6	1	29	272
29	82	162	2	8	5	16	275
28	87	156	4	5	1	18	271
27	102	138	0	7	2	18	267
26	104	147	2	9	2	12	276

2020年度大学入試センター試験平均点

科 目	英 語	リスニング	国 語	数 学ⅠA	数 学ⅡB	世界史B	日本史B	地 理B	現代社会
本校平均	115.5	28.7	123.3	46.9	36.2	57.4	62.7	62.2	60.0
全国平均	118.9	29.3	116.6	53.3	51.6	65.1	67.2	67.9	59.1

科 目	倫理政経	物 理	化 学	生 物	生物基礎	地学基礎
本校平均	68.8	52.3	45.3	51.6	32.7	25.2
全国平均	66.4	61.6	56.2	58.7	32.7	28.1

※全国平均は
中間発表のものです。

部活動報告

全国大会出場

ライフル部

☆全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

【エアライフル立射競技】

(個人60発・団体40発出場)

富田 彩美(桜川中)

小貫 夏奈(桃山中)

富田 萌美(桜川中)

【エアライフル立射60発競技】

(個人出場)

飯泉 佳大(桜川中)

齋藤 聖(関城中)

放送部

☆NHK杯全国放送コンテスト

創作テレビドラマ部門

アナウンス部門

片見 真愛(明野中)

相馬 麻夏(下館中)

片見 真愛(明野中)

福嶋 杏梨(笠間南中)

文芸部

☆全国高校生短歌大会短歌甲子園

大幡 浅黄(真岡中)

遠藤 朱潤(下館中)

金子 笑(結城東中)

最優秀校賞

☆河野裕子短歌賞

関東大会出場

水泳部

☆関東高等学校水泳競技大会

100Mバタフライ

中島 佑泰(協和中)

陸上部

☆関東高等学校陸上競技対校選手権大会

男子八種競技

新井 諒大(下館南中)

☆関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

4×400Mリレー

渡邊 侑大(関城中) 増山 竣也(結城中)

谷井 海翔(下館南中) 新井 諒大(下館南中)

ライフル部

☆関東高等学校ライフル射撃競技大会

【エアライフル立射60発競技】

(個人・団体出場)

富田 萌美(桜川中) 富田 彩美(桜川中)

矢口 緋奈乃(筑波東中) 飯泉 佳大(桜川中)

(個人出場)

小貫 夏奈(桃山中) 齋藤 聖(関城中)

【ビームピストル競技60発】

(個人出場)

松本 朋美(下館南中) 第5位入賞

☆関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会

【エアライフル立射60発競技】

(個人出場)

富田 萌美(桜川中) 第7位入賞

小貫 夏奈(桃山中) 矢口 緋奈乃(筑波東中)

【ビームピストル競技60発】

(個人出場)

山本 麻綾(笠間中)

卓球部

☆関東高等学校卓球大会

佐藤 光成(下館中) 岡本 流星(下館南中)

瀬端 隼(下館西中) 大嶋 優介(下館西中)

初澤 水晶(筑波西中) 舘 将太(岩瀬西中)

飯泉 翼(下館北中) 永盛 太喜(下館北中)

部活動紹介

硬式野球部

- 1 チーム一丸となって春の県大会に出場しベスト十六進出する。
- 2 二十四名
- 3 グラウンド
- 4 月曜日以外の平日、休日

軟式野球部

- 1 関東大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 部員十三名
- 3 マネージャー二名
- 4 下館一高グラウンド

男子バスケットボール部

- 1 県西大会優勝、県大会ベスト八を目指し、日々精進しています。
- 2 選手一五名
- 3 マネージャー二名
- 4 基本木曜以外

女子バスケットボール部

- 1 県西地区ベスト三、県大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 プレーヤー一三名
- 3 マネージャー二名
- 4 木曜日以外



1目標 2人数
3場所 4活動日

サッカー部

- 1 県大会出場を目標に日々真面目に練習に取り組んでいます。
- 2 選手 四十名
- 3 マネージャー 三名
- 4 基本月・木以外

バドミントン部

- 1 男子は団体県大会出場、女子は団体県大会ベスト八
- 2 男子二十名 女子二名
- 3 体育館
- 4 月・水・木・金・土・日

弓道部

- 1 私たちはインターハイ出場と自己の鍛錬を目標に日々の稽古に励んでいます。
- 2 三一名
- 3 弓道場
- 4 月曜日・土曜日

剣道部

- 1 私達は、関東大会出場を目標に日々強くなっているよう、稽古に励んでいます。
- 2 男子八名 女子五名
- 3 格技場
- 4 平日・金 午後六時半まで、土日祝祭日練習



空手部

- 1 組手・形ともに関東大会出場を目指しています。
- 2 一名
- 3 結城市内道場
- 4 毎週末

硬式テニス部

- 1 紳士のスポーツであるテニスを通して、その技術と共に人として成長することです。
- 2 男子九名 女子二名
- 3 成田橋下の河川敷、県西公園 学校コート
- 4 日曜日以外基本あり

ライフル射撃部

- 1 日々の積み重ねをモットーに、夏の全国大会上位入賞を目指しています。
- 2 一八名
- 3 旧定時制給食室 茨城県営ライフル射撃場
- 4 月曜以外放課後六時まで

陸上部

- 1 一人一人が向上心を持ち北関東・インターハイ出場を目標に練習に励んでいます。
- 2 二七名
- 3 ハンドボールコートの横
- 4 日曜日以外



ダンス部

- 1 コンテストで入賞、多くのイベントに参加して人々を笑顔にすることを目標に練習に励んでいる。
- 2 三十名
- 3 プール跡 紫西会館
- 4 毎週火・水・金 イベントコンテスト前に土曜練習



柔道部

- 1 男子団体関東大会出場
女子個人関東大会出場
- 2 二年生三名 一年生八名
- 3 格技場二階
- 4 月曜日から土曜日



男子バレーボール部

- 1 県西地区大会優勝、県大会ベスト八を目標に日々の練習に励んでいます。
- 2 選手十一名
- 3 マネージャー三名
- 4 月水曜日以外の平日休日



女子バレーボール部

- 1 県西大会優勝、県大会ベスト八を目標に日々練習に取り組んでいます。
- 2 選手二二名
- 3 マネージャー一名
- 4 体育館（月曜日はグラウンド）



男子ソフトテニス部

- 1 個人では全員一回戦突破を、団体では県西大会優勝を目標に、工夫して練習している。
- 2 二二名
- 3 テニスコート
- 4 夏季 毎日 冬季月曜以外（雨の日は休み）

女子ソフトテニス部

- 1 個人では全ペア県大会出場、団体では県ベスト八を目標に日々の練習に励んでいます。
- 2 十名
- 3 下館一高テニスコート
- 4 月曜日から雨の日以外

水泳部

- 1 夏の大会で全員がベストタイムを更新することを目標に、日々努力しています。
- 2 一年生二名 二年生三名
- 3 各スイミングスクール
- 4 月・火・水・金・土

登山部

- 1 夏休みに三千メートル級の山に全員で登頂する。
- 2 一年三名 二年生一名
- 3 物理室（ミーティング）
- 4 土曜日または日曜日に月一〜三回程登山やキャンプ



卓球部

- 1 私たちは団体県大会ベスト八を目標に、各々がライバル心を持って日々努力しています。
- 2 二年生七名 一年生九名
- 3 卓球場
- 4 火曜日・日曜日

ハンドボール部

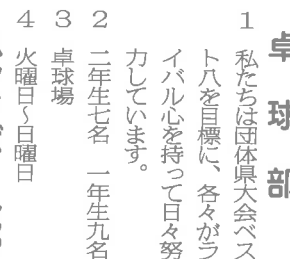
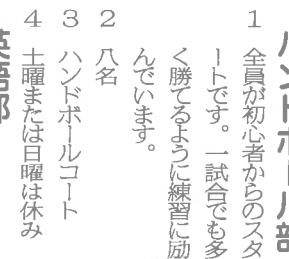
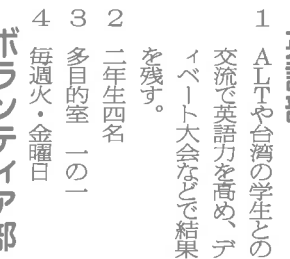
- 1 全員が初心者からのスタートです。一試合でも多く勝てるように練習に励んでいます。
- 2 八名
- 3 ハンドボールコート
- 4 土曜または日曜は休み

英語部

- 1 ALTや台湾の学生との交流で英語力を高め、デパート大会などで結果を残す。
- 2 二年生四名
- 3 多目的室 一の一
- 4 毎週火・金曜日

ボランティア部

- 1 一人でも多くの人に役立てるように、自分たちができることを精一杯頑張る。
- 2 十名
- 3 談話室
- 4 毎週月曜日の昼休み



文芸部

- 1 全国短歌甲子園優勝・各種コンクールでの入賞を目指しています。
- 2 二年生一名 一年生八名
- 3 談話室
- 4 毎週水曜日

ストリングオーケストラ部

- 1 春の定期演奏会で自分の得た技術を演奏すること。
- 2 九名
- 3 相談室(平日) 鳳来館(土日)
- 4 平日(月曜除く)

チアリーディング部

- 1 野球部の応援はもちろん、観客が笑顔になるパフォーマンスをすること。
- 2 一三名
- 3 体育館ステージ・中庭
- 4 火曜日、金曜日と木曜日

書道部

- 1 茨城美術展覧会などの作品展に向け、技術を向上し入選を目標に活動しています。
- 2 十名
- 3 特別棟三階図書室
- 4 毎週火曜日(それ以外は自主練習)



茶道部

- 1 茶道を通して礼儀作法を身につけ、おもてなしの心、日本文化を楽しく学ぶこと。
- 2 二年生八名 一年生四名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

美術部

- 1 美大進学 作品展への出品を目標に、美術の基礎、基本を学び、技術を向上させる。
- 2 二年生三名
- 3 特別棟二階西側突き当たり美術室
- 4 平日いつでも

応援団

- 1 団員を二十人以上集める。夏の野球応援に向けて、練習に励む。
- 2 二年生一名 一年生一名
- 3 体育館もしくは中庭
- 4 基本週二回(野球応援前は日数を増やします。)

吹奏楽部

- 1 人々が少しでも癒やされ、自分たち自身も楽しめるような演奏をする。
- 2 二年生一名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日



理科部

- 1 生物・化学すべて研究対象です。科学マニア大歓迎。
- 2 二名
- 3 化学室
- 4 週休三日制です。

写真部

- 1 私たち写真部は楽しい・おもしろいをモットーに活動しています。
- 2 二五名
- 3 生物室
- 4 不定期

放送部

- 1 全国大会出場を目標に、発声練習やテレビドラマ、ラジオドラマの作成をしている。
- 2 二年生四名 一年生二名
- 3 放送室
- 4 平日月金

軽音楽部

- 1 文化祭に向けて技能向上、意見交換を通して音を楽しむを目標に。
- 2 二年生三名 一年生八名
- 3 部室
- 4 平日のうち話し合いで決めた曜日

